

平成28年 第3回南アルプス市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成29年2月14日（火）
開会 午後2時 閉会 午後4時
2. 場 所 南アルプス市教育委員会 2階第4会議室
3. 議 題 別紙議事日程のとおり
4. 出席員 市長 金丸一元
教育長 小松重仁
教育長職務代理者 大堀卓
委員 小野ゆり
委員 飯野章
委員 津久井豊徳
委員 佐藤良子
5. 説明員 子育て支援課長 野田剛
生涯学習課長 名執彰一
学校教育推進課長 飯窪俊貴
福祉総合相談課長 浅利澄子
福祉総合相談課主幹 廣瀬久
6. 事務局 教育部長 小野義邦
教育総務課長 柴田肇
教育総務課主幹 五味正寿
7. 傍聴人 4名

事務局 A	<p>これより、平成28年度第3回南アルプス市総合教育会議を始めます。次第に従い、進行させていただきます。それでは金丸市長より、あいさつを宜しくお願いします。</p>
市長	<p>皆さん、こんにちは。第3回の総合教育会議開催にあたり、教育委員の皆様には、ご多忙の中、出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>さて、今年度最後となる総合教育会議でございますが、1回目では、年間テーマである「放課後子ども支援について」と「小中一貫教育について」、2回目では「放課後子ども支援の推進について」と「学校の適正規模・適正配置について」、それぞれ協議して頂きました。</p> <p>本日の協議事項は3件でございます。</p> <p>「放課後子ども支援の推進について」では、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の進捗状況の報告がありますので、ご意見を頂きたいと思っております。</p> <p>次に、前回に引き続き「学校の適正規模・適正配置について」でございます。</p> <p>今回は学校の通学区域の視点より、協議を行いたいと思っております。また、「子どもの貧困対策について」も今回、取り上げさせて頂きました。</p> <p>後ほど各担当よりそれぞれ説明がございます。</p> <p>本日も様々なご意見を皆様より、頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、開会のあいさつとさせて頂きます。</p>
事務局 A	<p>ありがとうございました。続いて協議事項に入ります。</p> <p>議事の進行は、市長が行うこととなっております。宜しくお願いします。</p>
市長	<p>それでは、協議事項に入ります。</p> <p>協議事項(1)「放課後子ども支援の推進について」、放課後児童クラブについては子育て支援課から、放課後子ども教室については生涯学習課からそれぞれ説明をお願いします。</p>
子育て支援課長	<p>資料1に基づき進捗状況を説明。</p>
市長	<p>説明が終わりました。何かご質問ご意見等ありますか。</p>

教育長	<p>1点ご質問します。児童クラブの整備計画の話がありましたが、今年度中に白根百田第二と楯形北を改修することとなっておりますが、整備されている2箇所の定員は何人くらいまで受け入れる体制でしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>現在、白根百田児童クラブについては、定員50名のところに100人前後の登録者がいる形になっています。今新築している第2児童クラブ（大きさは同等です。）の定員も同じく50名と50名で合計100名の定員数になります。</p> <p>50名に対し何人入れるのが適切かといわれれば、50名以内がいいのかもしれませんが、国の基準では1.65㎡を基準に面積換算しているので広いものであり、50名の定員に対し70名でもやっていけるとお思いますので、白根百田に関しては余裕が出てくるのではないかと考えています。</p> <p>楯形西、豊については、定員は変わりませんが、施設内の段差解消などを行っており、児童クラブに合わせた安全改修を行っています。ただし楯形北については、現在使用している部屋より広くなるので、定員の2倍近くの収容が可能となります。</p> <p>白根東、若草、小笠原についても定員規模100名を考え、50人、50人の2部屋を同じ施設に入れるための設計を現在、策定しているところであります。</p>
教育長	<p>今30年度までの整備計画となっておりますが、この計画でいきますと児童クラブは、今の定員の数よりもかなりの子供さん達を受け入れられる体制が、可能になるとの理解でよろしいでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>27年度から小学校6年生まで児童クラブの利用対象年齢が引き上げられ、4年生以上の利用者も年々増えています。現状では定員をオーバーしてまで4年生以上を受け入れることは厳しい状態ですが、3年生以下であれば定員を超えても入所していただいています。スペースが広がることで4年生以上も入所可能になると考えています。</p>
市長	<p>他にありますか。</p>
津久井委員	<p>関連してですが、施設が広がることで、それに関わる職員の数は増えるのか現状のままなのか、お聞かせください。</p>

子育て支援課長	<p>職員についても国の基準では20名に対し1人、最低1施設に2人以上になっています。</p> <p>現在、白根百田では5名配置していますが、1名増員となります。入所児童により変わってきますが、それに応じて適当な人員配置、支援員の配置を考えております。</p>
津久井委員	<p>施設（ハードの部分）が充実してきているので、人的な配置が増えると1人が見る子どもの数が少なくなるため、目が行き届き大変だと思いますが、並行して考慮していただきたいと思えます。</p>
市長	<p>人員は確保できるのでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>4月1日の新年度の運営までには、適正な職員を配置したいと思えます。</p>
飯野委員	<p>児童クラブの課題の中での要望ですが、夏休み以外の土曜日也希望とありますが、この背景にはどのようなことがあるのでしょうか。勤務日で保護者の希望があるのでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>合併から数年間は開所時間を8時半から行ってきました。その時間では通勤に間に合わないという意見があり、8時まで繰り上げて現在に至っています。</p> <p>その中でまだ8時でも間に合わず、7時半という声もあります。</p> <p>議会の一般質問でも質問がありましたが、申込書に就労証明をつけて頂いていますが、各保護者の勤務時間等を申込で確認した結果、約10人の方が不便を感じているとの状況でした。</p> <p>議会の答弁では、「ファミリーサポート制度も利用しながら」とのお答えをしていますが、韮崎市では30分繰り上げで別料金をいただいています。可能であれば本市でも、検討していったほうが良いと考えています。</p> <p>7時30分までの開所自体の要望は、8時30分から8時に比べ少ないものと思っています。</p>
飯野委員	<p>土曜日の開所の要望はどうでしょうか。</p>
子育て支援課長	<p>土曜日の開所希望もそんなに多くないと感じています。今、保育所では土曜保育を行っていますが、人数は多くないと思います。</p> <p>全てを開所すると費用もかかります。韮崎市でも4つある児童クラブを1つにまとめて行っている形です。</p> <p>現在、本市は夏休みの土曜日についても、各地区1箇所ですべて合同保育という形で行っています。そうすると支援員の確保、休暇代替の職員の配置も考え、財政課と打ち合わせをしていく必要があります。</p>

子育て支援課長	また、土曜日だけ別料金なども考えていく必要があると思われ ます。
飯野委員	今の話ではそれほど土曜日の希望者は少ないようですので市と しては、この要望についてはまだ、検討するくらいでしょうか。実 現は難しい方向でしょうか。
子育て支援課長	現在はどちらかというところ、一日保育の7時30分の繰上げの声 のほうが多いかと思えます。土曜日についても次年度の課題とし ていきたいと思えます。
佐藤委員	勉強不足で教えていただきたいのですが、開所時間が一日の場 合8時から19時までの11時間ですが、職員の勤務体制は遅番 早番など、どのようになっているのでしょうか。
子育て支援課長	1人の支援員の労働時間が7時間45分と決められていますので、 その範囲で早番、遅番、通常勤務のシフトを組んで対応してい ます。それでも人数が足りない場合、夏休みの長期の場合では学生 アルバイトや休暇代替の方に、お願いしています。
佐藤委員	ありがとうございました。今、長時間勤務が問題になっているの で、なるべく負担のかからない方法で、対応していただきたいと思 います。
小野委員	整備計画の方ですが、こちらに記載されていない施設（八田、南 湖）、児童クラブは既に何らかの改修や新築がされ、適正規模にな っているのか、または今後30年以降に順次行っていくのか、確認 させてください。
子育て支援課長	整備計画に関しては、定員を超過して窮屈になっている施設は 白根百田児童クラブ、白根東児童クラブでした。 また、小学校からの距離が遠いということで若草児童クラブ、小 笠原児童クラブが優先され、30年度までの計画にのせさせてい ただきました。 甲西の落合、大明、南湖については、合併以後の建設であり、ま だそれほど老朽化していない状況であることと、飯野は今から問 題になってくるかもしれませんが小学校内に1つと、白根健康セ ンター2階に1つありますが、1つの児童クラブに使用が集中し ていることから、狭い状況になってきていますので、改善策を考 えていかなければならないと考えています。 八田については、スペースも広いので利用するには問題があり ませんが、小学校から県道を渡る必要があり、小学校1年生の4 月、5月の頃、下校時が心配になるため、八田小学校内の敷地の中 に移せるスペースがあれば考えていきたいと思っています。

子育て支援課長	喫緊の課題としては3ヵ年で解消できると思います。
市長	他に何かありますか。 なければ、生涯学習課から「放課後子ども教室について」説明をお願いします。
生涯学習課長	資料2に基づき説明
市長	何かご質問等ございますか。
飯野委員	以前、放課後児童クラブと子ども教室を一体化した取り組みとの話がありましたが、制度的に違いがあり難しい課題があるとの話でしたが、放課後児童クラブが実施しているところが、児童館であれば一体化は可能との話があったと思いますが、実際、子ども教室を児童館で取り組まれているところもありますが、放課後子ども教室以外の子どもたちが、一緒になって取り組んでいるところもあるのでしょうか。
生涯学習課長	一体型ということですが、芦安、白根の児童館以外は児童館併設の放課後児童クラブですので、連携しながら教室を実施しています。 同じ建物の中に放課後児童クラブが入り、その隣で放課後児童クラブの子どもや放課後児童クラブに入っていない子どもも参加して、放課後子ども教室を行っています。 法律的な一体型とは少し違いますが、連携しながら行っています。児童館の先生方に指導補助を行っていただきながら運営しています。
飯野委員	今後もその方向でやっていく方針でしょうか。
生涯学習課長	はい、児童館を運営している子育て支援課と相談、協力しながら拡大を進めてまいりたいと思います。
津久井委員	今の一体化ということは、教育大綱の柱の中でもあったと思いますが、活動拠点となる施設の整備は進んできているように思います。 もう1つ、両事業で構成されている放課後の子供支援事業は、連携強化に取り組むとはっきりあるため、進めるべきだと考えます。 関連して学習に取り組むという大きな課題があったと思いますが、これはどうなっているのですか。

生涯学習課長	<p>現状の学習支援は、各学校の中で現役の先生方が取り組み、放課後児童クラブの中では、放課後児童クラブの先生方が宿題支援という形で見ていることもあります。</p> <p>その中で放課後こども教室としても、教室の中で学習支援も取り組んでいきたいと考え、指導者の確保もあたってきましたが、前回の話の中でもお答えした経緯がありますが、指導者の確保に苦慮して開催に至っていない状態です。</p> <p>また引き続き学校教育推進課とも検討しながら開催についても、検討したいと思います。</p>
大堀委員	<p>芦安については、規模が小さいが参加人数が多いように思いますが、参加人数はどのような状況ですか。</p> <p>芦安と比較すると他がもったいないと思いますが、参加人数は平均的な数字なのでしょうか。</p>
生涯学習課長	<p>各教室の方がヒップホップダンス教室、英会話については、大学の学生ボランティアで指導をしていただいております、各教室の定員が20名で募集させていただいているため、参加できる時間帯等もあり15～20名の範囲の中で参加が出ています。</p> <p>芦安については、コミュニティーバスで通っていることや、集団で参加している子どもや、児童クラブに入っている子供は、ほぼ参加していただいている状況であり、まとまった人数となっていると思います。</p> <p>各指導者の人数の関係で、20名の定員で行っています。</p>
市長	<p>この問題は、教育長とともに提案させていただきましたが、今、経済格差で学習を受ける機会に差があり、裕福なところは塾へも行くことができ、家庭教師も頼めますがそうでないところはできない、それが連鎖していくため、何とか裕福でない方のための学習の機会を考え、提案させていただいていますが、なかなか難しいことが現実的にわかってきました。</p> <p>貧困の問題もありますが、そんなに裕福といえない、そんなに貧困でない方の学習機会をどう確保していくかが、大きな課題と思っています。</p>
津久井委員	<p>こういったことを行っている他の市町村でうまくいっている、成功例はあるのでしょうか。</p>
生涯学習課長	<p>県内では笛吹市でNPOを中心に、学習支援の子ども教室を行い、先生のOBの方が中心になりうまくいっており、参考にさせていただいています。人材のところでは先行しているということです。</p>

津久井委員	<p>継続して年間でやることは、かなり無理があると個人的に思っています。</p> <p>例えば、夏休み中や中3の受験シーズンの秋口からずっとなど、期間を区切り計画すれば、多少協力できる方が出てくると思いました。</p>
佐藤委員	<p>貧困の問題にもつながっていくと思いますが、学習支援の方は裕福でなく塾にいけないなど、子どものために市で機会をつくっていただきたいと思います。</p> <p>新聞で甲府の市教委が、放課後こども教室の甲府モデルを策定したこともあり、参考にしていきたい。</p> <p>今までは、学生や一般の方が支援していましたが、教員のOBをターゲットにしっかりして配置し、学習していくなど、そのような情報を聞いて、本市でも取り入れていただきたいと思います。</p>
教育長	<p>笛吹市の例もありましたが、私も教員OBの方、何人かの方々にお願いしましたが、現実的には難しいですが、諦めてはいません。努力したいと思います。</p> <p>教員OBの方々との話で分かったことは、長期休業中の夏休み、冬休みに学校現場では行われている実態があります。</p> <p>学校教育の担当課で、学校にアンケート調査をした結果、学校現場では長期休業中には、先生方はそれなりに子どもたちの学習支援、いわゆる補習を行っています。</p> <p>今、ボランティアでの学習支援は非常に厳しくなっています。</p> <p>学校での長期休業中の実態を担当より説明していただきたいと思います。</p>
学校教育推進課長	<p>昨年7月下旬に22校に対しアンケートを行いました。</p> <p>休み時間に学習支援を行っている学校は、小学校15校中14校、中学校では7校中3校が実施しています。</p> <p>対象児童については、担任の目で見ても、授業に定着がみられない、遅れがあるなど補習等をし、欠席による補習などの子が小学校で目立っていました。中学校では休み時間が10分ですので、質問に対する回答、指導を行っていました。</p> <p>対応職員は小学校では主に担任、市単講師、県の非常勤、中学校では主に教科担任でした。</p> <p>放課後については、22校全て放課後の補習を行っていました。授業に遅れが目立つ子、休みがちの子、課題などができない子などの指導を行っていました。中学校では定期試験の前に、学習会などを行っており、学年担当教諭が各クラスを見ながら担当していま</p>

<p>学校教育 推進課長</p>	<p>す。</p> <p>長期休業中については、小学校15校中11校、中学校は7校中7校全てで行っていました。</p> <p>夏休み中に、支援が必要な子どもたちを担当が判断する中で指名し、希望者に予定を配布し行っているようです。</p> <p>中学校についても、補習が必要な子、希望者、特別なものでロボットコンテストに参加する子の支援も行っています。</p> <p>期間は小学校で1回からで、多い学校で12回、中学校では6回、多い学校で2週間程度行っています。</p> <p>学校体制で臨んでいただいている状況です。</p> <p>中学校では部活動もあり、学校体制での支援には限界があると思いますので、今後、考えていく必要があると思います。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>学校現場における補えない部分を今後、考えていく必要があると思います。</p> <p>先日、あるNPO法人が休日に学習支援をやっていましたが、確認した結果、年齢的には65から74歳の幅の方々が学習支援を行っていたのが現実でした。</p> <p>平日は学校も努力していただいていますので、長期の休みや受験シーズン前などに学習支援の手立てを行い、多少の予算的措置を講じていけば、学習の回数が増えるのではないかと個人的に思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>学習支援の問題は、非常に重要な問題であります。</p> <p>特に教育を受ける機会が均等でないことが、非常に大きな問題であります。</p> <p>市でも積極的に関わっていきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、次の協議事項に移ります。</p> <p>協議事項(3)「学校の適正規模・適正配置について」、教育総務課から説明をお願いします。</p>
<p>教育総務 課長</p>	<p>資料3に基づき説明</p>
<p>市長</p>	<p>何かご意見、ご質問等ございますか。</p>
<p>飯野委員</p>	<p>今回の話合いでは、だんだん小規模校化していく学校をどのように対応していくかについての観点より、話しても良いでしょうか。</p> <p>前は芦安地区の話が出ましたが、児童生徒数が減少し、芦安の学校以外でだんだん小規模校化していく学校を、どのようにしていくかの観点より今回、考えてみたいと思います。</p>

飯野委員	<p>今、この学区に通っている学校で、資料7ページにあるように小規模校の基準で、既に本市でもこの基準の枠に入っている学校もありますが今後、今の学区でこのような学校がどのような児童生徒数の推移になるのか、10年後くらいは見通せると思いますが、またその近隣の学校、全ての小中学校などのデータにもとづき、どのように対応するのか考える必要があると考えます。</p> <p>今からの将来に向けての、児童生徒数がどう推移していくのか、この学校の中でどのように対応しているのかなど、データが必要であると思います。</p> <p>このデータに基づき検討していくことが順序と考えますがどうでしょうか。</p>
教育総務課長	<p>今後、この適正配置について協議して行かせていただければ、その中で資料を提示させていただき、皆様で協議していただきたいと思っています。</p>
教育長	<p>飯野委員から意見があったようにシミュレーション的な資料は、既に事務局で用意してあります。</p> <p>この問題については、総合教育会議で説明したのが始めてでございます。</p> <p>手順としては、まだ検討する必要はないのではないか、検討委員会や協議会を立上げ、この問題について細かく今後協議していただきたいなど、教育委員の皆様からご意見をいただきたく、テーマにさせていただきました。</p> <p>飯野委員のおっしゃるとおりの視点でございます。</p> <p>前回、いきなり第2回に適正規模、適正配置のテーマを出させていただきました。</p> <p>本市においては合併以降、13年が過ぎ何も検討してこなかったため、総合教育会議のテーマで出させていただきました。</p> <p>どうしても学校の統合の視点が入ってしまいます。</p> <p>前は小規模校のメリット、デメリットの視点で協議していただきました。</p> <p>今回は切り口を変え、通学区域の見直しの視点から教育委員の皆様にご方向性等を協議していただきたいと思っています。</p>
津久井委員	<p>通学区域の視点からでは、選択の幅が増えますが地域、地元の声を大事にすることが必要であると思います。</p> <p>幅が増えることは、選択肢が増えるため良いことだと思います。</p>

市長	<p>この問題は、単純に人口が減ってきたから一緒になれば良い問題ではありません。現実の問題として、例えば破綻した夕張市は小学校も中学校も1つにしまいました。</p> <p>国立人口問題研究所の予想では、今後2040年には本市も6万人になってしまうなど、財源が失われ合併も考えていかなければならない状況も出てきます。</p> <p>しかし、地域では学校を絶対に残してほしいとの話が出てきます。この問題は将来を見据えて考えていかなければならないと思っています。</p> <p>具体的には、審議会等をつくり具体的な協議をさせていただく手順となると思いますが、何が重要であるかを考え議論する必要があります。</p>
教育長	<p>学校は地域コミュニティの核であり明治以来、いろんな機能をもちながら存続してきました。</p> <p>地域の意見を重視し聞くことは大事であり、合わせて実際に少子化が進み、今の学校22校で教育の視点から考え、子どもたちの教育について、この規模で良いのか1度は議論すべきであろうと思ひ、むしろ議論すべきかどうかの視点で総合教育会議に、ご提示させていただいています。</p> <p>1つは学校統合の方法もあり、もう1つは通学区域の視点もあります。</p> <p>通学時間も合わせて考える必要もあると思います。</p>
市長	<p>非常に大きい問題でありますので、時間をかけてじっくり扱っていく課題であると思います。</p>
市長	<p>それでは、次の協議事項に移ります。</p> <p>協議事項(4)「子どもの貧困対策について」、福祉総合相談課から説明をお願いします。</p>
福祉総合相談課長	<p>資料4に基づき説明</p>
市長	<p>何かご質問等ございますか。</p>
飯野委員	<p>貧困の格差が学力の格差につながらないようにするためには、ある程度、学力の向上を図る必要があります。</p> <p>そのためには対象の児童生徒を特定して、継続して指導する必要があります。</p> <p>今回、先生方が手を上げにくいのは、ある程度しっかりした準備や継続して行うなど非常に難しい面もあると感じます。</p> <p>今回の市の学習支援事業は、NPOが事業者となり、ノウハウの</p>

飯野委員	<p>ある事業者に属し、これが生活困窮者の子どもに 1 人でも多くの優位な支援ができるよう願っています。</p> <p>市としても学習支援については、全面的にバックアップして指導をお願いしたいと思います。</p>
津久井委員	<p>資料の中で、「すべての子どもが自身と誇りを持って成長できる」、「自己肯定感」、「居場所」など人間にとって大事であり、特に貧困家庭だけでなく児童生徒にとっても大事であり、趣旨は良いと思います。</p> <p>具体的になるとどう行っていくのか、例えば対象の人にアンケートを取る場合、特定ができるのか、学習機会の場所を設ける場合、来てくれる人の対象ができるのか、具体的に進める場合、そこにぶつかるのではないかと思います。</p>
福祉総合相談課主幹	<p>生活困窮者、生活困窮世帯のとらえ方は、昨年 27 年 4 月から出来た生活困窮者自立支援法によると、対象者は生活に生きづらさを抱えている人、生きづらい人が対象となります。</p> <p>資料の生活困窮世帯には、ひきこもりの人等もいます。</p> <p>市の相談支援担当の中に家庭児童相談室があり、保健師が担当しており、相談件数は毎年平均約 140 世帯、子どもの数で 250 を超える相談があります。</p> <p>延べで 2,700 件を超えます。</p> <p>まずこの方々を担当課では想定としています。</p> <p>また、常に各担当職員が連携して学校を含め、情報共有して行っています。</p> <p>自治会を単位で場所をつくっていき、サポーターとして大人の方、近所の学生、ボランティアを集め、人づくりをしたいと思っています。</p> <p>昨年、今年で研修やワークショップを開催し、人づくりを既に行っており、毎年 30 人から 50 人の市民が集まり、この方々に担い手になっていただく計画となっています。</p> <p>世間で言う、学習支援の形よりもう少し重い家庭が中心の学習支援となってきます。</p>
津久井委員	<p>今の話では、学校へも行けない貧困家庭に、考える視点を置いているのでしょうか。</p>
福祉総合相談課主幹	<p>学校へ行ける子、行きづらくなっている子、不登校になっている子もいます。年齢も上がっており高等学校までを想定し、要綱等を作成しています。</p> <p>もっと幅広くなり、支援員のコーディネートが必要であり、NP</p>

福祉総合相談課主幹	<p>〇に委託しようと考えています。</p>
津久井委員	<p>学校には行けているが、その中で貧困になる子どもの学力、生活をどうするか考えていましたが、広くなると個々の対応になると思います。</p> <p>私は、子どもの立場に立ってみると、貧困は関係なく生活の場は家庭であり、次は学校だと思います。</p> <p>まず学校で安心、自己肯定感ができるのが一番良いと思います。</p> <p>学校に来ることが楽しければ、その子は何かつかんでいくと思います。</p> <p>学校の先生方の意識も大事だと思いました。</p>
市長	<p>福祉課で考える学習支援と、教育委員会が考える学習支援が少し違いますが、どううまく行っていくかが重要です。貧困連鎖をどう断ち切って行くのが重要と考えます。視点を少し変えてく必要もあります。</p>
大堀委員	<p>地域に育成会があり、それをシステム化したような感じであり、放課後子ども教室の学習支援とも違うことはわかりました。</p> <p>居場所を用意することは良いのですが、ほぼ毎日が理想であり、各自治会に1箇所となると、大規模になってきてしまうと思いますが、そのようなイメージなののでしょうか。</p>
福祉総合相談課主幹	<p>研修参加者は老人介護の方、元保健師、教員の方々もいます。基本的にボランティアとして関わりを持っていただきます。</p> <p>無収入、無報酬であるため毎日行うことは厳しく、週1、2回で1回2時間前後となります。</p> <p>塾に全て委託するのではなく、NPOがコーディネートし、人材をつくり子どもたちに関わっていくことになります。</p> <p>子どもが来れる場所をつくり、最終的には自治会全体に沢山できれば良いと思っています。</p> <p>また地域の学生に関わってもらい、地域の担い手になってもらいたいと思っています。</p>
小野委員	<p>学校現場の学習支援と居場所づくりは、分けて考えると手段があると理解しました。</p> <p>貧困の連鎖を断つための育ちの場を、再生しつくり直すことが福祉総合相談課の事業だと思います。</p> <p>学習支援を取り入れていければ、その子の今後の人生と自立に役立つと思います。</p>

小野委員	<p>学校現場の学習支援とは少し違いますが、リンクできるのは放課後の学習支援、休み時間の学習支援は、つまずきが出てきたり少し混乱差が目立ってきたときにできる支援であり、貧困連鎖を断つためにはそうなる前から、手を入れる必要があります。</p> <p>生活上、子どもにずっと関わっていき、小学校1年生や低学年の頃から生きる場をフォローする学校側と、福祉の連携ができればありがたいと思います。</p>
教育長	<p>生活困窮世帯の子どもを対象のイメージでは、分かりやすいのですが、説明を聞いていると、生活困窮世帯の子どもと引きこもりがイメージできません。</p> <p>生活困窮世帯の子どもが必ずしも引きこもりではなく、引きこもりの子どもが必ずしも、経済的に恵まれない家庭でもない。対象がイメージできません。</p> <p>もう少し具体的な説明をしていただきたい。</p>
福祉総合相談課主幹	<p>金銭的には両親がいて問題がないが、但し養育環境が整っていない、両親がまったく面倒みない、食事を与えない、暴力をしてしまう家庭もあり、そのような子どもたちを生活困窮者と捉えています。ひきこもりの意味合いです。</p>
教育長	<p>私の理解では、一昨年につくられた生活困窮者自立支援法の生活困窮者の捉え方では、少し違うように思えます。</p> <p>間口が広がっており、賛成の立場から、実際の事業を行う時に絞りきれない懸念があります。</p> <p>今から行う事業であるため、いろんな課題を抱えながら実施する中で考えていくこともあると思います。</p>
市長	<p>貴重なご意見、長い時間ありがとうございました。</p> <p>この問題は大きな問題であります。</p> <p>やはり重要な問題ですので、真剣にこれからも考えて行きたいと思います。</p> <p>以上で協議事項を終了させていただきます。</p>
事務局 A	<p>協議事項は終了しました。</p> <p>放課後子ども支援については、児童クラブの計画、子ども教室の進捗状況、学校適正配置については今後、協議の場を設けていただける指示をもらいました。</p> <p>また、貧困対策については、来年度に向け進めていっていただきたいと思います。</p> <p>それでは3、その他ですが何かありますか。</p> <p>全ての協議は終了しました。</p>

事務局 A	以上で平成28年度第3回アルプス市総合教育会議を閉会いたします。ご苦労さまでした。
-------	---

この会議録は、会議の次第を録音機で収録し、これを再生補記するとともに、会議の開閉時刻、出席者、その他必要事項を補記して作成したものである。